

「臨床と微生物 2026 年 5 月特別増刊号」 お詫びと訂正
本書におきまして以下の誤りがございましたので、ここに訂正するとともにお詫び申し上げます。

掲載箇所	誤	正
178頁 著者所属	獨協医科大学臨床検査部	獨協医科大学 埼玉医療センター 臨床検査部
178頁 本文(右段上から3行目)	シマカ(<i>Aedes</i> spp.)	ヤブカ (<i>Aedes</i> spp.)
178頁 表1(ヤブカの項)	黄熱, デング熱, ジカ熱, チクングニヤ熱, 西ナイル熱, フィラリア(バンクロフト, マレー)	黄熱, デング熱, ジカ熱, チクングニヤ熱, フィラリア(バンクロフト, マレー) (※西ナイル熱を削除)
178頁 表1(イエカの項)	日本脳炎, セントルイス脳炎, フィラリア(バンクロフト)	日本脳炎, セントルイス脳炎, フィラリア(バンクロフト), 西ナイル熱 (※西ナイル熱を追加)
180頁 本文(左段上から7〜9行目)	ヤブカは前出の黄熱, デング熱, ジカ熱ウイルスのほか, 西ナイル熱, チクングニヤ熱, イエカは日本脳炎を媒介する。	ヤブカは前出の黄熱, デング熱, ジカ熱ウイルスのほか, チクングニヤ熱, イエカは日本脳炎, 西ナイル熱 を媒介する。

読者からのご質問にともなう補足情報のお知らせ

本書の記載につきまして、読者の方よりお問い合わせをいただきました内容を踏まえ、編集委員会にて確認いたしました補足情報を以下の通り掲載いたします。

【該当箇所】

「同定検査」の章

41 ページ:「オプトヒンディスクによる試験」の培養条件について

【補足事項】

本項の培養条件におきましては、近年の臨床微生物学における潮流、および最新の教科書等の記述に基づき、「炭酸ガス培養」の条件を掲載しております(参考文献 1, 2)。

一方で、メーカーの添付文書等におきましては、「大気環境下(好気培養)」が記載されている事例もございます。

オプトヒン試験は炭酸ガス培養により阻止円が縮小傾向を示すこと(参考文献 3)、また、オプトヒン感性の肺炎球菌以外の α -レンサ球菌やオプトヒン耐性肺炎球菌も存在することから(参考文献 4, 5)、疑わしい場合は胆汁溶解試験を行うことが推奨されます。

各施設にて検査を実施されるにあたりましては、それぞれの培養環境による判定への影響を理解するとともに、ご使用のメーカーの見解や仕様をご確認の上、ご対応いただけますようお願い申し上げます。

(参考文献)

1) Clinical Microbiology Procedures Handbook, 5th ed., 3.17.37, ASM Press, Washington, DC, 2023.
2) 豊川真弘: 第 3 章 微生物検査法 E 細菌の鑑別と同定に日常用いられる検査法 IX その他の性状テスト 3 オプトヒン感受性試験. 最新臨床検査学講座 臨床微生物学 第 2 版, p375, 松本哲哉編, 医歯薬出版, 東京, 2024.
3) Gardam MA, Miller MA: Optochin revisited: defining the optimal type of blood agar for presumptive identification of *Streptococcus pneumoniae*, J Clin Microbiol 36: 833-834, 1998.
4) Keith ER, Podmore RG, Anderson TP et al.: Characteristics of *Streptococcus pseudopneumoniae* isolated from purulent sputum samples, J Clin Microbiol 44: 923-927, 2006.
5) Richter SS, Heilmann KP, Dohrn CL et al.: Accuracy of phenotypic methods for identification of *Streptococcus pneumoniae* isolates included in surveillance programs. J Clin Microbiol. 46: 2184-2188, 2008.